

定期的な指導、支援有効

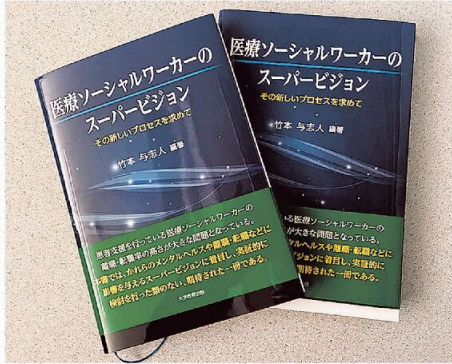
県立大 竹本教授らの研究 本に



竹本与志人教授

医療ソーシャルワーカーの重要性が増している。社会福祉の視点から患者や家族が抱える問題を解決する専門

職で、社会福祉士や精神保健福祉士らが担当している。ただ、精神的負担から一つの医療機関に定着しづらい現状があり、岡山県立大学の竹本与志人教授らは、その原因と改善策を研究し、本にまとめた。解決には定期的な



竹本教授らが著した「医療ソーシャルワーカーのスーパービジョン」

指導や助言、支援といった保護のまずさが、メンタルヘルスの低下に結びついていた。スーパービジョンの実践を高めることは、メンタルヘルスの維持や定着率の向上などに好影響を及ぼす可能性があることも判明した。

は、支援の質の低下につながる。竹本教授は「医療ソーシャルワーカーは福祉や医療制度を横断的に医療機にコーディネートするのを得意としている。ケートを基に分析し、患者が安心して治療や生活ができるよう結果を見たい」と話すと、仕事の量の調整 2750円。研究は、病院内 日本学術振興会の科学費助成事業で行

われた。

(斎藤章一朗)

(C) 山陽新聞社 無断複製・転載を禁じます。